

助けられなかった

高知 六年 のぶあき

「なに涙ぐんじゅうがなや」

目をつり上げて

中学生がどなった

中学生にはさまれて

男の子が立っている

かばんに黄色いカバーがついている

一年生か二年生

はなをズーズーすいながら

歯をカタカタとならしている

顔をくしゃくしゃにして

目には涙がたまっている

「お兄ちゃん助けて」

ぼくの方を見て泣き出した

「おまえだれな」

中学生にどなられた

「おまえだれなと言いつうがいや」

「ぼくはただの通りすがりです」

本当にこわかった

「おまえ帰れ 早く帰れ」

中学生がどなった

「泣くなよ 絶対泣くなよ」

と言いながら

男の子を何回もたたいている

ぼくは後ろを見ながら帰った

学校で先生に話しながら

ぼくは自分に腹が立った

くやしかった

涙が出てきて

笑おうとしても涙が出てきた

手や足がふるえて

自分がいやになった

あのときのこと

頭からはなれない

